

東日本大震災を乗り越えて次世代にメッセージをつなぐ 「石巻復興の森づくり植樹祭2021」を実施

公益財団法人イオン環境財団（理事長 岡田 卓也 イオン株式会社名誉会長相談役）は、11月3日（水・祝）、宮城県石巻南浜津波復興祈念公園で実施される「石巻復興の森づくり植樹祭2021」を実施します。

石巻市南浜地区にある石巻南浜津波復興祈念公園は、東日本大震災の記憶と教訓を次世代に伝える拠点として、本年3月に開園されました。イオンは、石巻市内でも特に甚大な津波被害を受けた同地区において、災害から地域を守る海岸防災林の再生を目指し、2017年から同公園整備地内にて「復興の森づくり植樹祭」を行っています。10年計画で、これまでの4年で約1,800名のボランティアがクロマツやカシワ等、海岸防災林に適した樹種、累計24,996本を植えました。

イオンは、東日本大震災の被災地の復興・創生に向けた活動として、2012年に「イオン心をつなぐプロジェクト」を発足し、全国からのボランティアとともに取り組む「イオン 東北復興ふるさとの森づくり」を実施してきました。

当財団も、本プロジェクトとの協働で宮城県亘理町や福島県いわき市の被災地で植樹活動を行ってきました。

石巻市においては、2012年に上釜ふれあい広場にて参加者1,600名とともに15,000本の植樹を実施し、2019年からは「石巻復興の森づくり植樹祭」を共催しています。今回は、植樹予定の3,000本に加え、「苗木の里親プロジェクト」(*)で地域ボランティアの皆さまに約1年間育てて頂いた175本の苗木も一緒に植樹します。緑あふれる沿岸部の再生を目指し、市民の皆さまにとって憩いの場になるとともに、環境学習も体験できる森を実現します。

当財団は、次代を担う子どもたちに豊かな自然を引き継ぐため、今後も植樹活動をはじめとする環境活動に積極的に取り組んでまいります。

記

<植樹概要>

日 時： 2021年11月3日（水・祝）10:00～12:30
10:00～10:15 開会式
10:20～12:00 1回目植樹 100名
11:00～12:30 2回目植樹 100名

場 所： 石巻南浜津波復興祈念公園

植樹本数： 3,175本 16種

クロマツ・カシワ・ネズミモチ・ハイネズ・テリハノイバラ・トベラ・マサキ
アキグミ・クコ・ハマナス・エノキ・オオシマザクラ・ネムノキ・ウツギ
ヤマツツジ・ツツブキ

主 催： 石巻南浜津波復興祈念公園参加型運営協議会

共 催： 国土交通省東北国営公園事務所・宮城県・石巻市・公益財団法人イオン環境財団

主な出席者： 石巻南浜津波復興祈念公園参加型運営協議会 会長

黒澤 健一

国土交通省 東北国営公園事務所 所長

佐々木 貴弘

宮城県土木部都市計画課 課長

中嶋 吉則

石巻市 市長

齋藤 正美

イオン東北株式会社 社長

辻 雅信

イオンモール株式会社 社長

岩村 康次

マックスバリュ南東北株式会社 社長

大南 淳二

公益財団法人イオン環境財団 専務理事

山本 百合子

以上

(※)「苗木の里親プロジェクト」は、コロナ禍での森づくりとして2020年10月に開始した活動です。地域ボランティアの皆さまに苗木をお預けし、自宅や学校等で約1年間育て、その苗木をイオンの森に植樹するという新たな植樹活動です。

ご参考

■公益財団法人イオン環境財団について

1990年「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオンの基本理念のもと設立されました。時代とともに変化する環境課題に応じた事業を継続実施しており、現在は「イオンの森づくり」・「助成」・「環境教育」・「パートナーシップ」の4事業を中心にステークホルダーの皆さまとともに環境活動を進めています。

<公益財団法人イオン環境財団ホームページ： <http://www.aeon.info/ef/> >

■宮城県における環境活動

イオンにおける1993年から2020年までの植樹累計本数は527,918本となりました。イオン環境財団における1991年から2020年までの環境活動助成総額は8,062万円となりました。

■亘理町植樹（2016年～2018年）

東日本大震災により大きな被害を受けた亘理町の海岸防災林の再生を目指し、宮城県・亘理町・当財団による「みやぎ海岸林再生みんなの森林づくり活動」の協定に基づき植樹を実施しました。2016年から2018年までの3年間で亘理町と全国のボランティアの皆さま3,000名とともに合計44,500本の苗木を植えました。



2016年 亘理町植樹

■第6回 アジア学生交流環境フォーラム（2017年）

当財団が2012年から毎年実施している、アジア各国の大学生が集い、各国の自然環境を学び、地球環境問題について討議を行う取り組み「アジア学生交流環境フォーラム（ASEP）」があります。本プログラム第6回の2017年は、日本で開催され8カ国8大学64名の大学生が「生物多様性と再生」というテーマのもと、東北の被災地を中心にフィールドワークを行いました。その中で亘理町で震災を経験した高校生・大学生とともに植樹を行うとともに、東北大学災害科学国際研究所において史料保全修復体験と減災について学びました。



東北大学災害科学国際研究所にて

■東北大学災害科学国際研究所との取り組み

2021年6月に、国立大学法人東北大学災害科学国際研究所とイオンモール株式会社との三者で「産学連携協力」に関する協定を締結しました。自然災害、地球規模の気候変動、大規模感染症など様々なリスクがある中、安全で安心できるレジリエント・コミュニティの創生を目指し、「防災・減災」「社のデザイン」「感染症対策」の3つの項目を中心に様々な活動を計画しています。

■イオン 東北復興ふるさとの森づくり

東日本大震災の翌年、2012年からスタートした「イオン心をつなぐプロジェクト」の中で、津波で失われた海岸林の再生を目指し、2021年までの10年間で東北沿岸部を中心に30万本の植樹をしております。その海岸防災林には防風、防砂の効果があり、塩害から農地や建物を守る効果もあります。

* 森の津波災害減災効果については、東北大学災害科学国際研究所所長 今村文彦が監修しました。



2019年3月9日仙台市荒浜植樹